

銅加工なら何でもできる

納期
相談
オンリー
ワン技術
試作可
小ロット
量産
対応



熟練工によるロウ付け加工に強みがある

業務内容 銅と銀をロウ付けする 接点部品が主力

「銅加工なら何でもできる」と紺谷彰良社長は胸を張る。丸棒や平板の銅材料を切削やプレスでさまざまな形状に加工する。売上高の70%を占める銅部品の中で主力となっているのは「ロウ付け」と呼ばれる方法で銀などの異種金属を接合した接点部品。鉄鋼メーカーが製造する工場用大型クレーンの電磁接触器に複数使われており、クレーンの速さやパワーを調整する装置を構成する。

「大一電機」では接点部品の製造から電磁接触器の組立まで担当。ほかにも電力会社の変圧器や鉄道車両など大電流が流れる機器用にさまざまな形状の銅部品を納入している。

強み 材料からめっきまで、 銅部品を一貫受注

さまざまな銅部品の製造を一貫受注できるのが強みである。核となる技術は熟練工がバーナーと高周波という2つの加工方法を使いこなす「ロウ付け」の技術。材料は規格材や異形材を在庫として保有しており、協力会社と連携して鍛造、鋳造、めっき加工まで提案できる。顧客の要求仕様に合わせて、材料費や加工費を抑えながら最適な銅部品を作る。得意とするのは2,000個以下の小ロット品。主力の接点部品なら受注後1週間以内に納入できる。小回りの良い対応で顧客の信頼を得て製品開発段階の試作を依頼される場合も多く、安定した受注の獲得につながっている。

成長 需要増狙う クレーン用ブレーキ補修の

銅部品の製造に次ぐ柱事業として成長を見込むのが、クレーン用ブレーキの補修事業。

ブレーキシューでドラムを挟み込んでクレーンを止める装置で、大きな力がかかるため、連結部や可動部が摩耗して、定期補修が必要になる。同社はほぼすべての国内製ブレーキの補修が可能。補修部品が製造されていない場合でも壊れた部品を一から製造して新品同様に直す。

平成25年に協力会社を事業承継して内製体制を構築済み。メーカー数が減少傾向にある中で補修業務の需要は増加すると見ており、今後、営業地域を広げて事業を伸ばすつもりだ。

今後の 展望 生産能力拡大で 成長目指す

主力の銅部品は現在、生産が追いつかない状態にある。今後、人員を増やして生産能力を高めつつ作業効率も向上し、平成29年7月に売上高5億円の達成を目指す。既存顧客以外にも造船や航空機など銅部品を使う業界は多い。今後、異形の特殊部品に狙いを絞って新顧客の開拓を進める。

また、最近では銅部品に代えて材料価格の変動が少なく、大幅な軽量化が可能なアルミ部品を採用する動きがある。アルミの加工やロウ付け技術に磨きをかけ、銅からアルミへの置き換え需要にも対応して、成長の足場を確かなものにしたところだ。



さまざまな形の銅部品を加工



クレーン用ブレーキ

当社の歴史



昭和32年に銅加工業として創業し、今年で60周年を迎えます。短納期、小ロットという顧客ニーズに応えるため、国内での製造とサービス提供にこだわっています。銅のロウ付けや曲げ加工など長年の経験で培った技術を途絶えさせることなく、継承していきたいと考えています。

代表取締役 紺谷 彰良さん

<http://www.dai1denki.co.jp/>

主な事業内容

非鉄金属加工（銅）、ロウ付け、起重機ブレーキ修理

主な取引先（納入先）

電機機械メーカー、鉄鋼メーカー

●住所

〒537-0023
大阪市東成区
玉津2-18-40
06-6981-0307
06-6981-0309
昭和32年12月
昭和33年1月
1,000万円
23名

●TEL

●FAX

●創業

●設立

●資本金

●従業員